

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書12章8～12節＞

「部分から全体をではなく、全体から部分を理解する」。

1 (8-9) 主イエスへの信仰告白に関して大事なことを教えられる個所。

「自分をわたしの仲間であると言います」(8)は直訳すると、「ホモロゲオー(信仰告白する)・エン(を)・エモイ(わたし)」で、「イエス様を信じます」と信仰告白することを指しています。教会が初代教会以来使っている「信仰告白」という言葉はこの語から来ています。さらに「人々の前で」がついていることも大事で、パウロは、「**口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです**」(ローマ 10:10)と教えていますが、ロマ書の「公に」は、初代教会以来、洗礼が礼拝の中で(「人々の前で」)行われるべき根拠とされて来、さらに今日の個所の後半の内容を通して、主への信仰は心の中で信じていたらいいのではないことを教えられます。聖書の信仰は、ある部分を読んでそこに記されていることだけでなく、聖書全体から理解を広げ、深めて行くべきものなのです。

2 (10)「**聖霊を冒瀆する者**」でどのようなことを考えるべきか。

「人の子の悪口を言う者は皆赦される」のに、「**聖霊を冒瀆する者は赦されない**」とはどういう意味でしょうか。これについても、ペトロは「イエスなど知らない」と信仰告白の真逆のことをしましたが赦されたことなども考慮に入れつつ、聖書全体から考えなければなりません。エフェソ書にはこうあります、「**神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです**」(4:30)。この節の前後でパウロは、あなたは教会を建てる言動をしているか、すなわち、同じ教会の信仰者に正しいと思ったことを語るだけでなく、それで本当に相手が慰められ励まされる愛と赦しに富んだ仕方になされているか、自己満足で無慈悲な言動をして相手を傷つけることになっていないかという内容を説き続けています(4:25-5:5)。「**神の聖霊を悲しませる、聖霊を冒瀆する**」ということは、こういう内容でこそ考えるべきなのです。

3 (11) **聖霊任せとは違う、イエス・キリストを見つめて歩む信仰!**

ここも読み間違えてはなりません。つまり、聖霊しか出て来ないからと言って聖霊だけ考えても、それは自分で考える自己本位な信仰になりかねません。キリスト教はイエス・キリストを中心に置き、この方を見つめて歩む信仰です。それがあべき姿と確信を与えてくれるのです。